

# 杜城偶感

保育に就いては僅かに半年の時日しか経験したこの無  
い私、其の私が思ひつくまゝ以下に述べる事は、恐らく、  
斯の道の識者のそしりを受けることばかりであらう。誠に  
僭越な振舞であるが、敢へて筆をこつた。

時局は益々優秀な人的資源を必要として居る。さなきだ  
に人口減少の傳へられてゐる昨今、私達幼児教育に當るも  
のは彼等の心身の健康に萬全の注意を拂ひ、その保全、増  
進に銳意心を用ひなくてはならない。其の方法としては最  
近、各幼稚園に於て種々考慮されて居るのであるが、其の  
中で最も重視されてゐるのは、戸外保育をより多くなす、  
さいふ事であらう。而も、其の大部分は、自由遊びが占め  
て居る事は無論である。

蒼茫と續く高い空を見上げながら、直射する日光の下で  
清澄な空気を呼吸し、綠なす植物と適度の濕氣を保つ大地  
の上で、のびのびと遊ぶ幼児の元氣な姿を見る事こそ、私

達の限らない喜びであらねばならない。直射する日光と清  
澄な空気は、生育と智的開發の上に非常に必要な事は何人  
も首肯する所であり、又願はしい所である。併し凡ての幼  
稚園が必ずしも左様な現狀に置かれてはゐない。そしてそ  
れは又如何にもなし難い事かも知れない。だが、ほんの一  
寸した心づかひでこそ達の健康の保全増進に幾分かでも  
たしになる事がありはすまいか。

或人が、「此處は幼稚園として特別につくつたのではな  
く、小學校の一部を利用したものですから何の設備もござ  
いません」。この園庭を歩きながら大變謙遜しておつしやつ  
た。ところが遊具は一通り以上、いや複雑なものさへある。  
だが、何ぞ殺風景な庭であらう。植物は極端に乏しいし、  
その上乾燥した土から舞ひ上るあの不愉快な灰色の土ぼこ  
りは何とも我慢の出来ないものであつた。——若し此の方  
が一挺の蹠をもつて土を掘りおこし、幼児を楽しませる  
さゝやかな草花でも、其の隅に植ゑたら如何であらう。土

F.

F.

壤も決して不適當ではないのだから。そして幼児と共に灌水し、ついでに庭園にも撒水したら、さうであらう。出来る事なら遊具の位置を考慮して、たゞ其程廣くならなくても、少しでもより廣い自由廣場をつくることに努力したら良いであらうに。たゞ何等の近代的遊具設備がなくて

も遊園はより良くせんとする心づかひのあふれた自由廣場のある事がよき遊び場の一條件ではあるまいか。私は此の杜の都さして知られて居る靜かな古城下に、かゝる殺風景な幼稚園を見て暗然たる思ひがあつた。こども達は何の爲に幼稚園に来るのであらう。あの子供達は今、抑へきれぬ生命の躍動を身内に感じながら近代的遊具の無關心的配置にその力を無意味に減じさせられてゐるのではあるまいか。たゞ室内に於ける保育がすばらしく子供達をひきつけるものであるにせよ、私はあの子供達に同情しないではゐられなかつた。

## 二

「私は春の様にあたゝかい人間でありたい。私の目からも、ふさもらすこばからも心のあたゝかさが春の日ざしの様にあふれ出る人間でありたい。心の中には水の様に温かな心情が淋漓さうづまき流れ……人の心をゆたかに潤ほす様な人間でありたい——」。

かういふこばをさうこかで讀んだ事がある。私も、何時

も斯くありたいと念じてゐる。これが保母としての最大條件ではあるまいか。

鋭敏な柔かい幼児の心を刺戟し、あの純真なまなざしに一抹の曇りを生ぜしめる様な心の持ち方、行動は慎しまねばならぬ、これは誠に當然の事である。併し其の當然の事が仲々行はれてゐないのではあるまいか。保育は、こどもの心に保母の心がさけこんでゆく所から始まるべきで居る。保育は決して他人對のものではない。保母さこそもの向上の問題である。

## 三

此の頃、倉橋先生は、「保母の教養」を題されて非常に有益な示唆に富むお話を發表された。保母程其の教養に於てまち／＼なものはないさうである。それは保母たり得る者の資格の廣さにもよらうが、又現制度の缺陷さもいへる。

さにかく私達は子供から學ぶと同時に古今内外の書物から大いに學ばねばならない、そして保育項目の各々の取扱ひは器用に行はれながら、何さなく自内に覺える頼りなさ心細さを解消してゆかねばならぬのではあるまいか。殊に私に於てさうであるさしみ／＼思つた事であつた。先生のあなたのお話は正に全國の保母に對する警告さもいへるであらう。